
NEWS RELEASE

デジタルガレージ、ソフトウェア開発を手がける米国子会社の事業を シリコンバレーのクラウドソフトウェア大手 *Pivotal* に売却

株式会社デジタルガレージ（東証 JASDAQ 4819、本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 兼 グループ CEO：林 郁、以下：DG）は、完全子会社であり、企業や政府向けのソフトウェア開発とデザインコンサルティングを手がける Neo Innovation, Inc.（本社：米国カリフォルニア州サンフランシスコ市、CEO：Giff Constable、以下：Neo）の事業を、企業のデジタル変革を推進するクラウドソフトウェア大手の Pivotal Software（本社：米国カリフォルニア州サンフランシスコ市、CEO：Rob Mee、以下：Pivotal）に売却しました。

Neo は 2012 年 3 月にサンフランシスコで設立以来、アジャイル開発手法に基づくソフトウェア開発とデザインコンサルティングを手がけてきました。新規事業を効率良く立ち上げる手法として注目を集めている「Lean Startup」にいち早く着目し、ニューヨークやシンガポールに拠点を構えグローバルなネットワークを広げることで、Adobe や eBay、Time、シンガポール政府といった大手顧客を獲得してきました。現在は DG がサンフランシスコで運営するインキュベーションセンター「DG717」を拠点にアジャイル開発のコミュニティ活動も行なっています。

今回、Neo の事業を Pivotal に売却にする背景には、アジャイル開発支援市場におけるグローバルな業界再編と、クラウド環境の利用を前提としたアプリケーションに向けた、いわゆる「クラウドネイティブ」のプラットフォームが、ソフトウェア開発に欠かせなくなってきたことがあります。アジャイル開発手法やクラウドネイティブのプラットフォームが、スタートアップ企業のみならず大企業の新規事業立ち上げなどにも広く採用されるようになったことで、世界規模のネットワークを有し豊富なノウハウや人材を抱え、先進的なアプリケーションの実装に必要なフルスタックの技術基盤を備える業界大手に、クライアント企業からの発注が集まる傾向が強まってきました。このため、Neo の事業をこれまで以上のスピードで拡大していくには、ネイティブクラウドプラットフォームである「Pivotal Cloud Foundry」を提供する業界最大手の Pivotal 傘下で、さらに多くの顧客を取り込んでいくことが不可欠と判断しました。

なお、DG グループにおいてこれまで Neo が担ってきた、グループ内のソフトウェア開発を牽引する役割は、2016 年春の立ち上げに向けて現在準備を進めている新たな研究開発組織「DG Lab」が引き継ぎます。DG Lab では、Neo で培ったアジャイル開発手法を活用し、「ブロックチェーン」「VR/AR」（仮想現実/拡張現実）といった分野で、オープンイノベーション形式の研究開発を推進していきます。

また、DG は今回の事業譲渡により、2016 年 6 月期第 4 四半期に約 7 億円の特別利益の計上と、年間約 4 億円のコスト削減効果を見込んでいます。